



あなたの挑戦が、学校を変える。

未来の管理職へ。



目次

武蔵村山市立雷塚小学校	
校長 赤坂弘樹 先生	P3
板橋区立中台中学校	
副校長 森田直実 先生	P4
中央区立銀座中学校	
主幹教諭 穂坂もなみ 先生	P5
東京都立国分寺高等学校	
副校長 松原志保 先生	P6
指導部高等学校教育指導課	
指導主事 相田知輝 先生	P7
東京都立江東特別支援学校	
校長 浅見信彦 先生	P8
管理職のスケジュール	P9
職層によるモデル年収例	P10
制度や待遇について	P10

選考
A

職層
校長

武蔵村山市立雷塚小学校
赤坂 弘樹 先生

校長の1日の仕事と、仕事への思い

今年度より校長として本校に着任しました。私の1日は毎朝、交差点で子供たちと挨拶をすることからスタートします。毎日元気に、そして安全に登校できるよう心掛けています。授業が始まると教室を見て回り、子供たちや先生方の様子を観察しています。子供たちや先生方が頑張っているところを探しながら、いろいろな教室を巡回します。その他、学校全体に関わる計画や配布文書などのチェック、副校長先生や先生方との打ち合わせも行っています。



学校の外では、学校運営協議会の方々との密な連携を心がけています。大切なのは情報の素早い共有です。子供たちのこと、学校行事、それから不審者対応など、さまざまなことについて情報を共有しておくことで、「学校の外ではこんな感じだよ」とか「じゃあ、今度パトロールしてみるね」など、さまざまな協力をいただいている。

教育管理職やA選考を選択した理由

私自身、これまで関わってきた校長先生や副校長先生に背中を押していただいて、教育研究員や研究開発委員などを経験することができました。だから、自分も教員の背中を押して応援することができる教育管理職になりたいと思ったのが選択のきっかけです。

そして、指導主事を経験された管理職の先生にアドバイスをいただいたことや、研修会での確な指導助言を行う指導主事に憧れを抱いたことから、A選考を選びました。教育委員会での経験が、管理職になった今、とても活きていると実感しています。

また、教育委員会では、様々な学校、様々な校長先生に出会うことができたこと。それが一番の財産です。たくさんの学校経営に触れることができました。

先生方と、子供たちの笑顔を

生み出す充実感を味わっています。



ライフワークバランスについて

まずは、教職員のライフワークバランスを最優先にしています。その上で、自分自身もプライベートの時間を充実させ、心身ともに健康な状態で職務に当たれるよう心掛けています。教職員がいつも元気で明るく話し合えるような環境作りを目指しています。



赤坂弘樹先生のキャリアヒストリー



赤坂弘樹先生の
インタビュー動画
はこちら



これから教育管理職を目指す方へのメッセージ

教職員が気持ちよく働ける学校をつくり、一人一人の教職員の頑張りによって子供たちの笑顔を生み出していく充実感は、教員として子供たちに関わる充実感とは違いますが、とても魅力的です。少しでもやってみようかなと思っているのであれば、チャレンジしてほしいと思います。プレッシャーはありますが、一緒に頑張りましょう。



これまで積み上げてきたことは、

必ず管理職になって生きてきます。



YOUNG
WOMEN
IN
THE
FIELD

ライフワークバランスについて

副校長というと、「多忙」「責任重大」というイメージが強いかもしれません。確かに、業務は多岐にわたります。でも、だからこそ自分の時間を大切にしています。仕事中も一人で抱え込まないことを大事にしています。若い先生たちと業務を分担し、あえて任せてみる。それが先生方の成長にもつながりますし、私自身も一息つくことができ、お互いにとって良い循環が生まれます。副校長という役職だからこそ、心身の健康を保ち、家庭や趣味とのバランスを意識しています。そのことが、結果的に学校全体の安定にもつながると思っています。



森田直実先生の
インタビュー動画
はこちら



森田直実先生のキャリアヒストリー



これから教育管理職を目指す方へのメッセージ

管理職というと、「大変そう」「辛そう」というイメージを抱く人もいるかと思います。かつての私もそうでした。自信がなくても、まずは一歩踏み出してみてください。経験のすべてが無駄になることはありません。これまで積み上げてきたことは、必ず管理職になんでも生きてきます。ぜひ一緒に頑張りましょう！

選考
B

職層
副校長

板橋区立中台中学校
森田 直実 先生

副校長の1日の仕事と、仕事への思い

副校長として勤務して今年で2年目となりました。私の1日は、朝の校内巡回で危険なところがないかを点検することから始まります。その後、校長先生と打ち合わせを行い、1日の流れを確認します。授業中は教室へ行って授業を見たり、メールをチェックしたり、教育委員会と連絡を行ったりしています。副校長補佐が配置されているので、日々、一人でやりきれない業務は支援してもらえるので助かっています。

自分がこの立場になってみてわかったのは、毎日が予定外の連続で、朝やろうと考えていた計画がそのまま進むことは、まずないということです。教員のときは、目の前のクラスや授業がうまくいけば満足していましたが、副校長は、誰かの成功を陰でそっと支える役割なのだと気付きました。前に出て指示するだけではなく、時には一歩引いて、相手の力を信じて支える。副校長の仕事は表に出ないけれど、学校の中にちゃんと安心感をつくる。そんな役割だと今は実感しています。



教育管理職やB選考を選択した理由

子供と向き合う毎日は充実しており、担任として、分掌主任として、クラスや分掌を動かすことで手一杯だったので、初めは副校長になろうなんて考えてもいませんでした。しかし、ある日ふと学校全体を俯瞰で見たとき、一つの分掌やクラス、学年だけではなく、教職員、保護者、地域、それぞれをつなぎながら、学校という大きな舞台を動かしていく。そんな役割に挑戦してみたいと自然に思うようになったのです。「見えなかったものが見たい」。それが、管理職を志した最初のきっかけでした。

A選考で指導主事を経験するか、現場で働きながらB選考で副校長を目指すかは迷いました。でも、現場を離れずに学校全体を見渡す力を身に付けたいと思い、B選考を選びました。教育管理職としての視点をもち、日々の実務を通して、これまでとは違う力を伸ばしていきたいと考えたからです。

選考
B

職層
主幹教諭

中央区立銀座中学校
穂坂 もなみ 先生

主幹教諭の1日の仕事と、仕事への思い

昇任猶予制度を活用し、現在、管理職候補者として勤務しています。私は、まず学校に出勤すると、管理職と打ち合わせをしてから職員打合せを行います。そのあとは、全体の打ち合わせ。生徒が登校してくると、クラスのホームルーム、授業という流れです。授業では、体育を行っています。



放課後は、男子バレー部の活動に2時間ほど参加しています。生徒が帰ったあとは、他の先生方と授業の打ち合わせ、部活動の打ち合わせ、分掌の打ち合わせ等を行います。

実際に主幹教諭として働くことで、学年の先生や分掌が同じ先生方に自分の考えを直接伝えられます。皆さんと一緒に仕事をすることができ、今、充実した生活を送っています。また、管理職の先生方にも直接自分の意見を言うことで、やりたいことが実行しやすく、働きやすい環境であると感じます。主任の先生の中には主幹教諭を目指している方がいるので、自分たち主幹教諭の働き方が見えるように意識しています。

教育管理職やB選考を選択した理由

中学校の校長である母の影響で、採用当初から「いつかは管理職になりたい」と考えていました。母の周りには女性の管理職が多く、管理職への抵抗は初めからほとんどありませんでした。

教育管理職を強く意識するようになったのは「学校リーダー育成特別講座」です。同じような考えをもつ仲間と一緒に研修やグループワークを行ったり、実際に女性の管理職の方と話したりしたときに受験しようと決めました。

教員生活が長くなればなるほど、自分の考えなどを生徒に教えるのには限度があり、先生方の協力が不可欠だと感じようになりました。そのため、教員が安心して力を出し切る環境を作りたいと思うようになったのです。その思いが一番早く実現できるのが、副校長だと考えました。また、生徒や先生が成長していく姿を身近で見たいと思ったのもB選考にした理由の一つです。

教育管理職になりたい気持ちがあるのなら、まずは受験を！

あるのなら、まずは受験を！



ライフワークバランスについて

家には仕事を持ち込まないようにしています。家族とは仕事の話はほとんどしません。土日は部活動があり、とても迷惑をかけているので、通勤時間を最小限にすることで家の時間も取れるようにしています。また、長期休業中などは、まとめて休みを取り、気持ちをリフレッシュしています。



穂坂もなみ先生のキャリアヒストリー



穂坂もなみ先生の
インタビュー動画
はこちら



これから教育管理職を目指す方へのメッセージ

女性や子育て世代など、多くの方に受験してほしいと思います。東京都には昇任猶予をはじめ、さまざまな制度があります。私もこの制度を利用しました。

やりたいという気持ちがあるのならば、まずは受験してみてはいかがでしょうか。学校の先生になりたいという若者が増えるよう、気持ちがある人が管理職になるのはとても重要なことです。一緒に頑張りましょう。



子供たちの教育に貢献し、先生方を

支えるやりがいのある仕事です。



ライフワークバランスについて

子育てをするようになってからは特に、育児や家事、仕事のバランスについて家族とよく話し合うことと、メリハリをつけて働くことを大切にしてきました。急な家庭の事情のために、職場の方々にご迷惑をおかけしてしまうこともありましたが、どの職場でも本当に温かく支えていただきました。困ったときには無理をせず助けていただき、自分ができるときにお返ししようと思い、今までやってきました。



副校长への昇任後は、「〇時には仕事を切り上げて家に帰る」と決めて業務に取り組んでいます。休める時にはしっかり休むようにし、自分や家族でのお楽しみの予定を入れてリフレッシュするようになります。

選考
A 職層
副校長 | 東京都立国分寺高等学校
松原 志保 先生

副校長の1日の仕事と、仕事への思い

副校長に昇任して2年目となる私の1日は、メールの確認から始まります。始業時間になり先生方が揃ったら、朝の打合せを開始。先生方の様子にも気を配りながら、管理職からの連絡事項をお伝えします。放課後の時間を利用して、生徒に論文指導を行うこともあります。管理職になった今も、生徒と関わることができるとしても大切な時間です。



副校長になって初めて経験する業務も多く、1年目はまるで転職をしたような毎日でした。慣れない仕事に戸惑うこともありますが、困ったときには一人で抱え込まず、校長先生や繋がりのできた副校長先生方に相談するようにしました。立場上、孤独を感じもありますが、校長先生のご指導のもと、先生方と協力して学校づくりに取り組めることにはやりがいを感じています。また先生方から相談を受けて、一緒に考えたり悩んだり。「話を聞いてもらえてよかった」と言っていただけると、少しは力になれたかな、と嬉しく思います。

教育管理職やA選考を選択した理由

学校に勤務している先生方が「もっとこうしたい」「こうしたほうがいいのでは」と課題に感じていることを教育行政に届けるとともに、学校経営に生かすことができれば、と思い教育管理職を目指しました。また、私が入都したのは教員の採用人数がとても少ない時代だったので、自分たちの世代の誰かがやらなければ、という思いもありました。

そんな中でA選考を選んだのは、東京教師道場の部員や教育研究員をしていたときに、私たちの気持ちに寄り添いながら、課題解決に向けて一緒に取り組んでくださる指導主事の先生方に出会ったからです。私もぜひ、自分の経験を生かして現場の先生方を支えていきたいと思いました。昇任については猶予制度もあり、私のように子育てと昇任のタイミングが重なったときには、家庭の事情を優先することも可能です。



これから教育管理職を目指す方へのメッセージ

管理職は確かに大変な仕事ですが、学校づくりや、東京都の教育施策に携わるという大きな視点から子供たちの教育に貢献し、先生方を支えていけるやりがいのある仕事です。生徒だけではなく、学校という組織が大きく成長していく瞬間に立ち会えることは、管理職という仕事の醍醐味だと思います。ぜひ、一緒に頑張っていきましょう。



選考
A

職層
指導主事

指導部高等学校教育指導課
相田 知輝 先生

指導主事の1日の仕事と、仕事への思い

指導主事となって4年目となる私の1日は、メールチェックから始まります。教育庁の各部署、学校、外部企業など、メールの量が非常に多いため、毎日、整理する時間を確保しています。対応の優先順序をつけて1日のスケジュールを決めます。

任用前の指導主事に対するイメージは、第一に「多忙」、第二に「何やら難しそうなことをしている」、第三に「学校から冷たくされるのではないか」とでした。任用直後は、分からぬことばかり。何をすればよいか不安で、管理職とのやり取りにプレッシャーがありました。教育庁の各部署とのやりとり、各ガイドラインや通知の読み込み、事故対応などを繰り返すことで、次に自分が何をすればよいか、学校に対してどのような伝え方をすればよいのかという見通しが立つようになりました。そして、次第に自分から進んで提案もできるようになりました。



教育管理職やA選考を選択した理由

教員になって12年目、中学生の学年主任を担当していたとき、副校长先生からA選考を勧めていただきました。当時の私は、指導主事は、学校に与えられたミッションを達成するためにリーダーシップを発揮している、ごく一部の教員がなるものだと考えていました。それまで、自身のキャリアアップに関しては全く意識をしていなかったのですが、勧められることに弱く、管理職選考受験を即決した記憶があります。

せっかく管理職を目指すのであれば、行政を経験して東京都の施策について理解を深めたいと考え、A選考を受験しました。最初は授業や部活動がないことに喪失感がありました。日々経験できることが段違いに多く、学校に戻った際も生かせることばかりでした。今ではA選考を受験して本当によかったと思っています。

いかに時間を上手に使うかが、

指導主事のやりがいのひとつです

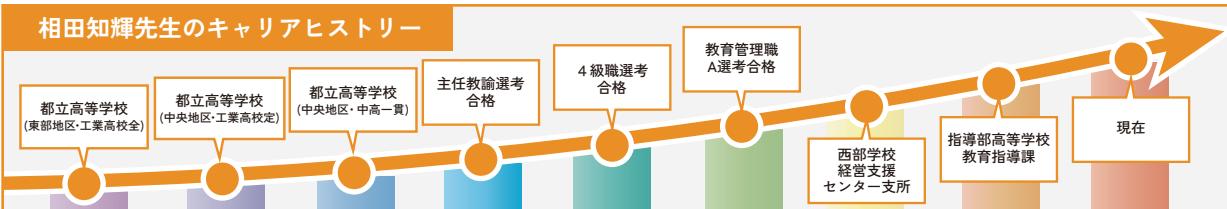


ライフワークバランスについて

学校現場の先生たちも同じことが言えるかもしれません。一つの仕事を納得いくまで進めようとすると、とても時間が足りません。「この1時間はこの仕事をここまで進めて会議に出す」など、時間を区切ってスケジュールを組んでいます。また、新規の業務は少しでも良いのすぐに手を付け、どの程度時間がかかるか見通しを立てます。特に人から頼まれたことは、自分の仕事を後回しにしても、すぐに対応するようにしています。信頼関係を築いておくと、自分が困ったときに助けてもらえます。



相田知輝先生のキャリアヒストリー



相田知輝先生の
インタビュー動画
はこちら



これから教育管理職を目指す方へのメッセージ

行政に多忙なイメージをもたれている方が多いと思いますが、実際に効率化できる業務が多く、いかに時間を上手に使うかというのが、指導主事のやりがいのひとつだと感じています。もし、あなたが行政に興味があるのであれば、まずは管理職に相談してチャレンジしてみてはどうでしょうか。一緒に仕事をできる日を楽しみにしています。



次のキャリアに進み、視野が

広がることで成長できる

NOBUHOKO SHINSHI

ライフワークバランスについて

学校の仕事、教員の仕事には、例えば、授業づくりや学校行事の企画などがあります。これらは突き詰めてしまうと、もしかしたら終わりがない仕事と言えるかもしれません。だからこそ、どこかで区切りをつけ、早い段階で上司や同僚に相談する。そうしたことが、働き方改革につながるかもしれません。

また、自分がプライベートで大切にしていることを充実させるのもとても大事なことです。ですから、そのための時間を確保するということが大切だと思います。



浅見信彦先生の
インタビュー動画
はこちる



浅見信彦先生のキャリアヒストリー



これから教育管理職を目指す方へのメッセージ

私は過去に先輩から「職が人を育てる」という言葉を教えていただきました。誰しもが、最初から役割を担えるだけの力があるわけではないと思います。次のキャリアに進むことで視野が広がり、見え方が変わってくることで成長できることもあります。きっかけは人それぞれいいと思います。皆さんもチャレンジしてみませんか。

選考
A

職層
校長

東京都立江東特別支援学校
浅見 信彦 先生

校長の1日の仕事と、仕事への思い

今年度、校長に昇任し、本校に着任いたしました。私の一日は、朝、新聞やメール、ニュースなどから情報を収集することから始まります。毎朝の職員朝会では、先生方にタイムリーな情報を伝え、子供たちと向き合う際の参考になるような話題を共有することを心がけています。



登校時間には、玄関で子供たち一人一人と挨拶を交わしながら迎えています。子供たちの様子や健康状態に変化がないかななど、各教室や保健室を自分の目で見て回るようにしています。全校の子供たちと毎日顔を合わせることは、私にとって大きな楽しみの一つです。

任用前は、校長という存在は、教員たちが目指す方向を常に先頭で導いてくださる「すごい人」である一方、校長室で一人、少し孤独で寂しさもあるイメージを抱いていました。実際に管理職として学校運営に携わる中で、学校は子供たちを中心に、教職員、保護者、地域の皆さんとの信頼や協力によって成り立っていることを実感しています。だからこそ、校長として何ができるのかを、常に先生方と一緒に考え、行動することが学校運営において最も大切なことだと感じています。

教育管理職やA選考を選択した理由

教員10年目となった34歳のとき、当時の校長先生に勧められて教育管理職候補者選考を受験しました。そのとき私は一人の担任、進路担当者で、自分の力の限界を感じていました。もっと多くの子供たちの成長に関わるためにどうしたらいいかを考えた先に、この管理職としてのキャリアアップがありました。

A選考を選んだのは、当時の副校長先生がA選考を経て管理職になったということを知ったからです。その先生のように、判断が早く、ぶれない、直面した課題や悩みに明確に答えてくれる。私もそんな管理職になりたいと思ったからです。





管理職のスケジュール

学校を支える管理職の先生方は、日々どのような時間を過ごしているのでしょうか。校長・副校長・指導主事、それぞれの立場でのスケジュールを通して、教育現場を支える多様な仕事の姿をのぞいてみましょう。



武蔵村山市立雷塚小学校
赤坂 弘樹 先生

ある1週間のスケジュール

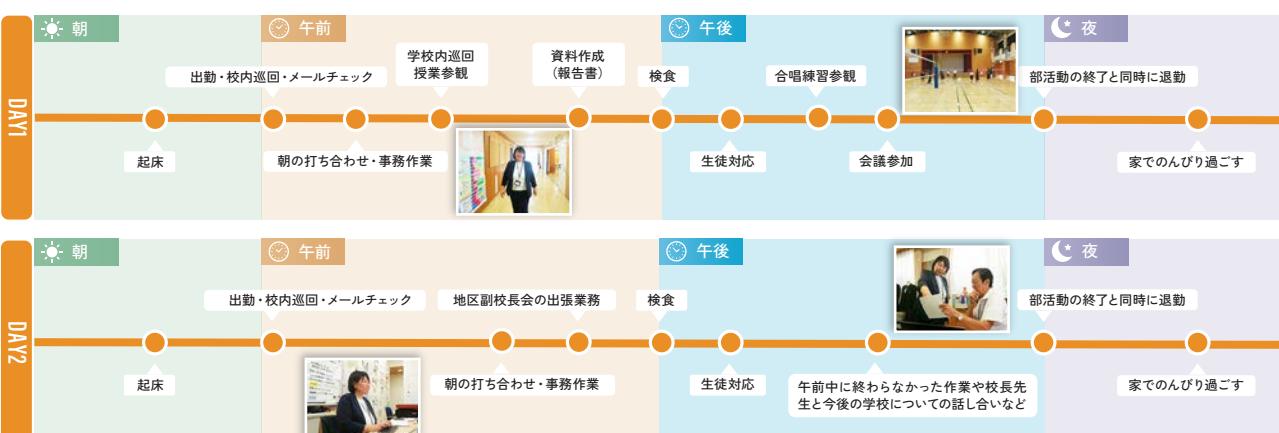
	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
⌚ 朝	出勤 挨拶見守り	出勤 挨拶見守り	出勤 挨拶見守り	出勤 挨拶見守り	出勤
⌚ 午前	校内巡回 打ち合わせ 検食	校長会 検食	校内巡回 資料作成 検食	校内巡回 打ち合わせ 検食	校外学習引率
⌚ 午後	校内巡回 企画会 退勤	校内巡回 市の委員会に出張 退勤	校内研究授業 退勤	校内巡回 夕会 退勤	退勤
🌙 夜				教員サッカーの応援	



板橋区立中台中学校
森田 直実 先生

ある2日間のスケジュール

事務作業は統計調査や回答資料などの作成、校務支援システムでの勤怠管理、保護者宛てメールの作成、校舎内整備、副校長補佐との連絡、教職員からの報告・連絡・相談、会議出席、会計年度職員の勤怠管理などを行います。



指導部高等学校教育指導課
相田 知輝 先生

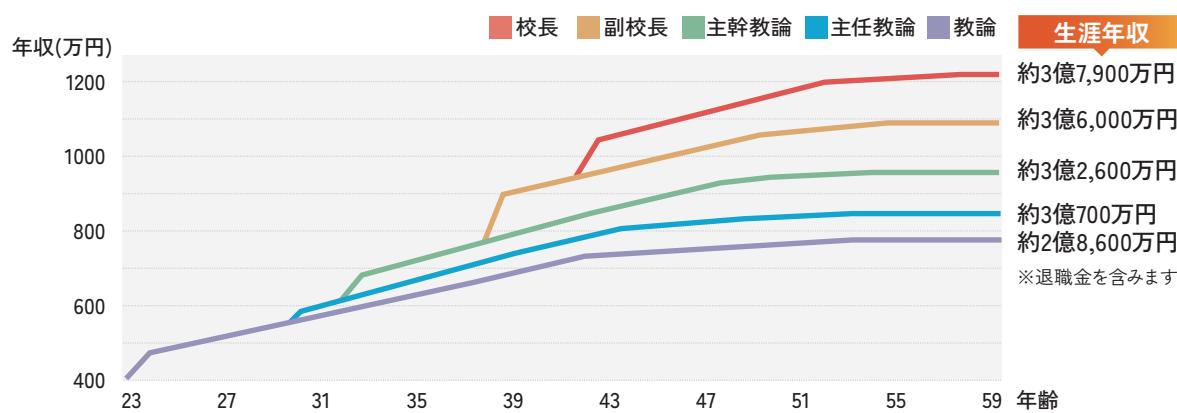
ある1週間のスケジュール

	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
⌚ 朝	登庁	登庁	登庁	登庁	直行
⌚ 午前	事務作業 会場設営	会場設営 企業との会議	打ち合わせ 講師とのオンラインミーティング	日直(電話当番)をしながら通知等作成	授業研究訪問
⌚ 午後	班会 休憩 上司へのレク 移動	休憩 移動	休憩 通知等発出 会場設営	移動・食事 学校訪問(事業打合せ)	移動・食事
🌙 夜	課会 打ち合わせ 事務作業 退庁	校長連絡会 直帰	他部署との情報交換会 事務作業 退庁	移動 事業会場下見 直帰	管理職候補者研修 直帰

職層によるモデル年収例

安定した昇給が見込めるのも東京都教員のメリットでもあります。
職層におけるモデル年収の一例を紹介します。

職層によるモデル年収例 (令和7年4月時点で想定)



制度や待遇について

安心して働けるよう、様々な制度や支援体制が整えられています。
働き方を支えるスタッフや研修・任用制度についてご紹介します。



研修制度

教職員の職層や経験年数や自己の課題等に応じて選択する希望性の研修を開設しています。専門性を高めるための多様な研修を実施し、教育専門職としての成長を支援しています。管理職を目指す教員向けの研修もあり、教育管理職に必要な資質能力を高めることができます。

QRコードから詳細を
ご覧ください ➔



働き方改革をすすめるスタッフ

管理職の先生方が「教育に集中できる時間」をつくるために、学校の中には先生方のサポートをする様々なスタッフが働いています。

たとえば、ロールモデル紹介動画の中で話にあった副校長補佐という役割では、校長・副校長のそばで、服務管理・講師手配・調査報告など学校運営を支える高度なサポートを担っています。こうしたスタッフが日々の“縁の下の力持ち”として支えることで、管理職の先生方は組織の舵取りや教育方針の策定に専念することができます。

任用制度について

QRコードより教員の任用制度についてご紹介します。ご自身の今後の現在の職層や今後のキャリアプランについて考えてみましょう。

QRコードから詳細を
ご覧ください ➔



昇任猶予制度について

教育管理職候補者（教育管理職選考に合格した者）については、ライフ・ワーク・バランスに資することを目的として、家族の介護や子の養育等の事情により職務との両立が困難である場合、ご本人の申し出により教育管理職候補期間におけるジョブ・ローテーションや研修の実施を延期し、教育管理職への昇任を猶予することができる制度があります。（対象や期間などの詳細については所属長に御確認ください）

東京都の最新情報はこちら

クリックでリンクが開きます



東京都公式YouTubeチャンネル
<https://www.youtube.com/tokyo>



東京都教育委員会ホームページ
<https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/>

問い合わせ先

東京都教育庁人事部
〒163-8001
東京都新宿区西新宿二丁目8番1号

◆ 東京都教育委員会
教育管理職ロールモデル集

